

北部地域整備対策特別委員会行政視察（概要）

1 視察日

令和5年10月16日（月）～17日（火）

2 視察項目（視察都市）

- ・ 耶馬溪アクアパークについて（大分県中津市）
- ・ 九重“夢”大吊橋について（大分県玖珠郡九重町）

3 参加委員

委員長：稲葉 通宣、副委員長：岡本 壱郎

委員：永田 真樹、朝田 充、河本 光宏、円藤 こずえ

委員外議員：辰見 直子

4 調査概要

耶馬溪ダムイメージ向上や有効活用のため、水上スキーをはじめとしたトーイングスポーツによるまちづくりを進め、アクアパークの利用者及び認知度は上昇し続けている。毎年、全国又は国際規模の大会が開催されるなど、競技者間では水上スポーツのメッカと称されている。今後、さらなる地域活性化に貢献するため、水上スポーツ普及と地域資源活用の好循環を確立させる仕組みづくりを図っている。平成26年に創設した中津市マリンスポーツクラブの在席者が、水上スキー推薦で進学する成果も表れたため、アクアパーク利用者の進学や就職に伴う、Iターン・Uターンに寄与する施設としての展開も検討している。

九重町は県内で2番目に小さいまちであり、観光客に一日滞在してもらえようようなスポットを作りたいとの思いから、大吊橋の建設に取り組んだ。開通当時は高さ、長さともに日本一であった。大きな反響があり、開通1か月後には年間目標を超える37万人の観光客が来場した。令和6年に18周年を迎え、通算渡橋者1,300万人に達成する見込みである。



九重“夢”大吊橋にて

5 委員長所感

耶馬溪アクアパークでは、水上スキーの国際大会等を開催することで経済効果を生み出している。運営面を考えたとき、湖面の一般利用だけでなく何らかの大会やイベントを誘致する必要があると感じた。また、安威川ダムがあるからこそできる施策を実施することで、市民満足度の向上や観光誘致のみならず、茨木市に住みたい、茨木市の学校では特別な体験ができる等、新たな居住者の誘致にも繋がる可能性がある。

九重“夢”大吊橋では、開設当初、その話題の大きさから一気に観光客が訪れ、交通渋滞により近隣住民の生活に大きな影響があった。ダムパークいばきたに面する道路も狭く、同様のトラブルが想定されるため、対策を十分に行う必要があると考える。今回得た知見をしっかりとダムパークいばきたの運営に活かしていきたい。